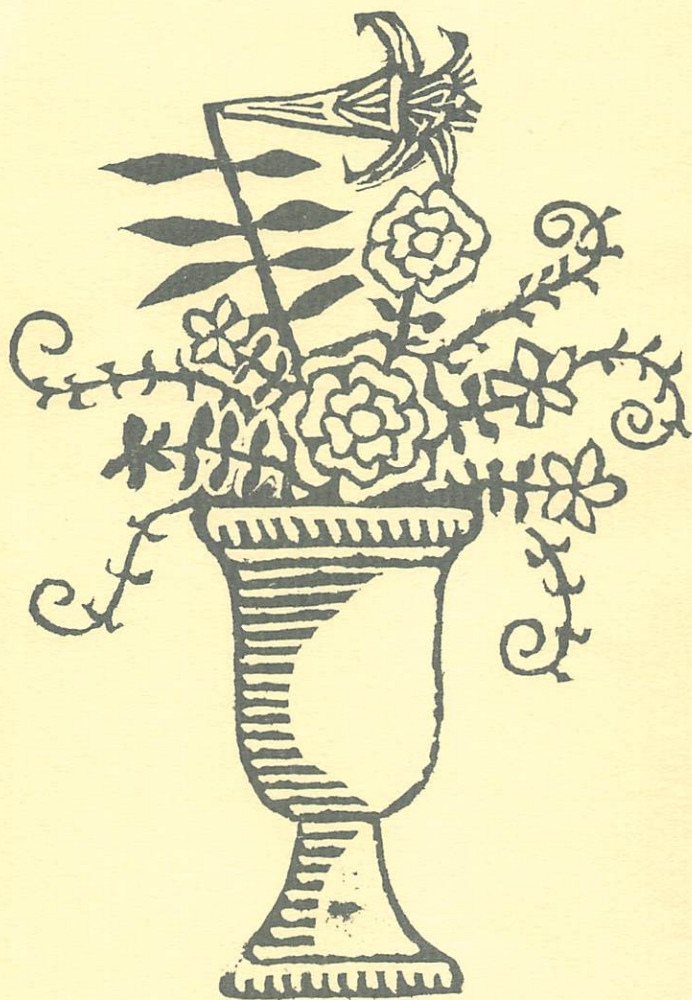
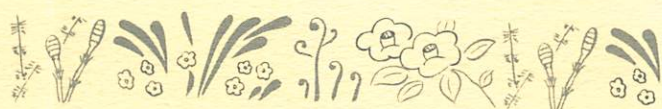


香葉



1971

NO. 2



香 葉 第 2 号

関東学院同窓会会誌

目 次

記念すべき1971年	時田 信夫	1
近 況	林 淳三	2
同窓会というものについての所感	高梨 勇	3
総会報告		4
“柴三九男先生を囲む会”のご案内		6
諸先生方のページ		7
香報室（卒業生のページ）		10
集いの窓“おひさしぶり”		17
覚え書(二) —女専・短大小史—	上市 二郎	19
各科だより		21
母校ニュース		22
編集後記		25

表紙.....関 頼武氏

カット...青木千恵子

記念すべき一九七一年



時田 信夫

今年是中国の国連参加、台湾の国連追放、アメリカのドル防衛のための円その他の変動相場制の影響、その他さまざまの大問題が次から次と、よくもこれ程にと驚くばかり沢山生じました。関東学院女子短期大学の卒業生の中にも、この影響を受けておられる方々が相当にあるのではないでしようか。そのような方々には心から御同情申し上げます。

私は、今年三月二十一日から四月十日まで、イスラエル、ギリシヤ、ローマ、スイス、ドイツ、フランス、ロンドン、デンマーク、アラスカのアンカレッジを歴訪して羽田に帰ってまいりました。この海外旅行は日本キリスト教歴史学会主催のもので、学者や牧師、学生、実業家など合計五十八名でした。私はチャブレン兼通訳でした。案内者、講演者、質問者などの通訳をしました。

今回の旅行には家内を同伴しました。家内は和服でしたが、漢方薬（丸薬）のおかげで元気よく行動を共にしました。一番印象深い所は、ヨルダン河の上流の清水地域。クムラン洞窟跡。キブツのゲストハウスに一泊したこと。イエスの十字架の道。ヘルモン山の遠望とガリラヤ湖。ギリシヤのアテネとコリントの町。ローマ法皇との特別謁見と握手並びに金メダルを受領したこと。スイスの高山列車。ドイツのゲーテハウスとライン川の古城。フランスのルーブル美術館とベルサイユ宮殿。ロンドンのウェストミンスター寺院とバッキンガム宮殿。コペンハーゲン市等々。特に北極地点の上の白夜に飛行したこと。

帰国後、六月二十七日（日）の午後、関東学院女子短期大学の香葉会総会の時、「旅行の印象」を話しました。その時には「ユダヤ人の日本人観」も話しました。それはベンダサン著の『日本人とユダヤ人』が当時、ベスト・セラーとして評判が高かったため、その本の見解を批判するためでした。

更に、八月二十九日（日）には山手のイギリス館で、関東学院女子専門学校の第一回卒業生の同級会が開かれましたのでそこに出席し、林学長の挨拶に引き続いて、「女専の創立当時の話」をしました。旧姓樋口佳子さんは、長男の高校生に我々一同の記念写真をとらせて下さってその後送って下さった。心から感謝しています。

（短大講師）

近況



学長

林 淳 三

私は関東学院に来る前に他の女子短大教員を二校経験しており、今でもそれぞれの学校卒業生のクラス会に出ることがあります。そしてその度に感じることは、何れも私の教え子でありながら、卒業後なおこころもそのクラスの性格が残るものかということであり、それは一人々々の方々にお出合いした時は余り感じないのですが、クラス会という集団になると不思議にも現れるのであります。同じ学校でも学科や卒業年次によって違いがありますが、これを学校別に見ますと、何れの学校も個々のクラス会を越えた共通的性格を持っていることに気がつきませす。このことは今年の夏、本学の新旧二つの卒業生クラス会に招待され、なお一層その感を深くしました。これらのクラス会の内容については当然幹事の方から本号に紹介されているでしょうが、その一つは香葉会の中で最も古い女専英文科第一回卒業生の会、他の一つは本年三月卒業されたばかりの家政科食物栄養専攻の会という、全く対照的なクラス会であります。何れも楽しい一時をすごさせていただき、有り難うございました。女専の第一回卒業生の方々は、本学が終戦直後の混乱期に創設されたため、設備も不十分であったでしょうが、キリスト教の教えが今より強く打ち出された英文科女子高等教養教育という方針のもとで学

ばれ、現在は人間的にもそれぞれ円熟期に達しておられるわけです。しかし、食物栄養の新卒の方は、本学院が最も混迷紛争した昭和四十四年に入学されたのであり、最新の設備で教育を受けたとはいえ、大学教育そのものが問われた時に、栄養士課程という技術面が加味された本学では多少異質な教育を受けられたのであります。ところがこのクラス会では他校に見られる栄養士課程特有の職業教育臭が全く感じられませんでした。それよりむしろ年代を越えた女専第一回のクラス会に似かよった面を持っているように思われました。まさにこれこそ関東学院女子短大の先輩諸先生並びに過去に在学された卒業生の方々により培われた特質にはかありません。この両クラス会を通して私は現在学校を問わずに教育の重要性をなお一層自覚させられました。

次に関東学院および短大の現況を簡単に報告申し上げます。関東学院全体の問題としては、本年二月に前燦葉会々長の加藤亮三氏が法人の理事長として就任され、いま何れの大学も悩みの種であります経常部累積赤字の処理に取りくんでおられます。八月には関東学院大学の財政分析と再建施策が打ち出され、次々に実行に移されつつあります。短大は昨年ハンソン山を整地し、その地に漸次移転することになり本年は手始めとして短大だけの体育館が建築中であり、明年二月に完成します。また、最近の理事会で昭和四十八年度から幼児教育科を開設する前提として、それに必要な教室、実験室の設計準備をする件が承認され、資金の準備ができれば、明年四月から工事に着手することになります。これにはまだ多くの問題が残っておりますが、私はその実現に最大の努力をしたいと考えております。

同窓会というものに

ついでにの所感



合同同窓会会長

高 梨 勇

社会へ巣立ってから四十年余、手馴れた仕事上の事に関しましては下手ながら時々機関紙等には寄稿はしておりますが、女性を主とした同窓会誌などは殊に不得手でございますが、折角の委員の方のお達しでございますので、草稿をお届けして責を塞がさせていただきますと存じます。

どの学校にも同窓会というものがあります。その目的とするところはご承知の通り一口にいては会員相互の親睦と母校を陰に陽に後援するという事に尽きると思います。

人間には本能的にノスタルジヤ (nostalgia) というものがあると存じます。永い海外生活をしている人も死ぬ時は故国でという望郷の念にかられると聞きます。数々のノスタルジヤの内、母校に対するそれは大きなものであり、又単なる精神的なものばかりでなく人間生活、経済社会生活上寄与するところが大きい事は贅言を要しないところであります。

日本経済新聞朝刊に交遊抄という欄があつて毎日愛読しておりますが、数々の交遊ケースの内一番多く目につくのは、学生時代以来

の良友、悪友達との永い年月にわたる心温まる交遊関係であります。が、気心の知れ合った友人というものはせち辛い世の中にあつてオアシスといつても過言ではないと思います。人間というものは齢をとつて人生も終点に近付くに比例して懐旧の情が強くなるものです。未だ若い人達にはピンと来ないと思いますがやがてはお判りになると思います。

私の場合燦葉会、中学校同窓会の内、卒業以来それ迄なかつた小学校の同窓生の集まりを今当健在でいられる先生方もお招きして十数年前から時々設営され、白髪、禿げの老人達が誰々チャンと呼び合い子供時代に還つてはほ笑ましい一刻を過ごして伴の嫁、娘の縁談の情報交換、さては孫の自慢話等々花を咲かせております。同一会社に當つて机を並べた連中即ちOB連中との心置きな集りも同様に人生の楽しみの一つであります。

母校の発展を祈念しない者はないと存じます。同窓生たるもの個人の幸福を求めると同様に大いに陰に陽に後援すべきは人情であろうと存じます。どうぞ同窓会を可愛がって頂きたい。会の運営には皆で若い時から力を注がれることを心からお願ひ致します。

話しは別ですが、私は新夫婦にいつも一つの提案を申し上げております。それは生きてる限り結婚記念日にその時の家族全員で写真を撮つて専用のアルバムを作り上げて行かれてはいかかということとです。当日は子供達、孫達も否応なしに集まつて楽しい団らんの時を過ごす機会にもなります。その積み重ねは齡と共に貴重なものです。私も先輩の薦めで始めたのですが幸い一回も欠かすことなく今年で三十六枚目となり、過ぎし方を振り返りノスタルジヤの絶好の資料となりこのアルバムは最高の家宝と考えております。お若い方々のご参考になれば幸甚です。

香 葉 会

昭和 45 年度決算 及び 昭和 46 年度予算
(自昭和45. 4. 1～至 昭和46. 3. 31) (自昭和46. 4. 1～至 昭和47. 3. 31)

摘 要		昭和45年度 算 予	昭和45年度 決 算	差 引	昭和46年度 算 予
収入の部	会 費	816,000	816,000	0	936,000
	寄 付 金	(@2,400×340人) 2,350	2,350	0	(@2,400×390人) 前年度より繰入
	合同よりの援助金	340,000 (@1,000×340人)	340,000	0	112,010 390,000 (@1,000×390人)
収入 合 計		1,158,350	1,158,350	0	1,438,010
支 出 の 部	総 務 費	70,000	18,752	51,248	50,000
	集 信 費	40,000	68,520	△28,520	80,000
	通 信 費	40,000	27,316	12,684	50,000
	交 通 費	10,000	2,040	7,960	20,000
	事 務 費	50,000	32,649	17,351	60,000
	新 入 員 迎 接 費	42,000	37,900	4,100	50,000
	の 他 雑 費	26,350	0	26,350	63,010
	予 備 費	20,000	0	20,000	30,000
	事 業 費	350,000	349,163	837	450,000
	合 同 分 担 金	442,000 (@1,300×340人)	442,000	0	507,000 (@1,300×390人)
支 出 の 部	基本金勘定へ繰出	68,000	6,8000	0	78,000
	次年度へ繰越	(@ 200×340人)	112,010	112,010	(@200×390人)
支出 合 計		1,158,350	1,158,350	0	1,438,010

同窓会のしくみ

合同同窓会

香
葉
会

六
葉
会

燦
葉
会

檉
會

関東学院女子高等学校
 関東学院女子専門学校
 関東学院短期大学
 関東学院短期大学二部
 関東学院女子短期大学

関東学院六浦中学校
 関東学院六浦高等学校

関東学院大学専攻科
 関東学院大学
 関東学院工業専門学校
 関東学院経済専門学校
 関東学院高等商業部
 関東学院社会事業部
 関東学院神学部

関東学院中学校
 関東学院高等学校

相川先生

定年記念感謝会のこと

昭和二十一年、横浜は文字通り焼野原、米兵が市中に溢れ、かまぼこ兵舎の林立する中で、当時、高商部の教頭でいらした相川先生は新しい女子教育の理想をかかげて、現在の短大の前身である女子専門学校を創立されました。以来二十数余年にわたり学長として短大の発展に力を注いで下さいましたが、四十六年三月、定年を迎えられました。卒業生としてその長年にわたる御功績を感謝し記念の会を計画、四月二十五日現旧教職員の方と共に、先生を短大ホールにお招きしました。卒業以来、初めて学校にいらした方も多く、六十五名の出席者を迎えて、当時の思い出話、とっておきのすっぱぬきに花が咲きました。おつむに多少白いものがちらほらする丈で一寸もお変りにならない万年青年の先生の昔変わらぬ名講話も伺い先生益々御健在の念を深めました。先生の愛

唱歌である讚美歌五一〇番、五三三番を皆で合唱しましたが、「よく覚えていてくれたね」とお喜びでした。

当日御出席いただけなかった山の方々からも御寄附をいただき、先生御希望のカラータレビを差し上げる事ができました。皆様の御協力に心から感謝いたします。当日はその後、有志主催の晩餐会が予定されており、先生は御出席の為帰りを急がれましたので、折角十数年ぶりにお逢いになった、なつかしい方々とゆっくりご歓談いただく時間がなく先生にも卒業生にも心残りであったことと、主催者側の不行届きをおわび申し上げます。先生はその後、奥様とヨーロッパへ行かれアメリカ各地で講演をされ益々お元気で御活躍です。現在は大学文学部と短大で教えておられます。短大のめざましい発展は二十余年の歴史の上に築かれた相川先生の御努力と諸先生方のお働きに他ならないと卒業生一同感謝申し上げ御健康をお祈り申し上げます。 (古城房子記)

柴三九男先生を囲む会

と き 6月25日(日)午後1時30分
と ころ 関東学院女子短期大学学生ホール

女専短大の歴史と共に専任教授としてご奉仕いただき、卒業生におなじみの深い、柴先生を囲んで、歓談の一時をもちたいと計画しております。おつむは少しうすくなられましたが、いつもお元気な笑顔を総会にみせて下さいます。おさそいあわせの上ぜひお出かけ下さい。



本誌二号目

にあたり、先生方にもご執筆いただきました。今回は各科よりおひとりづつ、自由な発想で、「近況」、「感想」等をお寄せ願ったわけです。良き師との出合いは心に記念碑のようにくつきり刻まれております。お便りも学生時代を髣髴とさせる懐かしく楽しいものばかりです。こうして先生方のお元氣な御様子に再び接することができまことは、私どもにとつてこの上ない喜びなのです。お忙しい中、御労をありがとうございます。

(ABC順)

欧米の旅九十日間

相川 高秋

今回の世界旅行は六月二十二日羽田発、ソ連、仏、スイス、伊、独、スウェーデン、英、

米経由、九月二十日羽田着という長期間にわたるものであったが、主な目的はモスコーのロシア正教会本部公式訪問、ジュネーブに於けるNCC世界指導者会議、マインツの神学ゼミナール、スウェーデン、バプテスト同盟幹部との打合せ、英国バプテスト同盟総主事との懇談、最後にはアメリカ、ミッドジョン本部指導者との協議並びに米国各地の教会、大学に於ける講演であった。モスコーとジュネーブは日本NCC代表(副議長)の資格での旅行であり、スウェーデン、英、米は日本バプテスト同盟の代表(理事長)の資格での旅であったがこの二つが一緒になったため到着の処で望外の歓迎を受け、アメリカ各地の新聞は何れも私の来訪と講演の記事を、時には写真入りで取扱ってくれた。マクビンビルの新聞等は世界的講演者というようなオーバーの表現を用い、食事中カメラマンのフラッシュに、気をつけて物を口に入れねばならぬ程だった。

詳しい報告は、度重なる講演会(短大関係は白染読書会グループの会合)でしているし、印刷としては「教会教育」(NCC教育部発行)に長いものを書いているので、その方を知って欲しい。ただここでは、短大関係の方々に外地でお逢いした時の事を簡単に書いて

みることにする。



ドイツのデュッセルドーフには、林(相馬)みなさん一家が住んでいる。彼等は私を、ライン上りの船のケルン上陸場に迎えてくれて、デュッセルドーフの家に一泊させて下さった上、数百哩をドライブして、モーゼル川の辺り迄案内してくれた。スウェーデンではリネルさん宅に二泊した。御夫妻とも御元氣で、室には日本の物がいっぱいだった。パレィ・フォージのバプテスト本部で、私が話をした時は、ミス・クナーベ、マクエダニル・エビンガー等の元宣教師が、わざわざ聞きに

来てくれた。レーベンウォース宅には一週間以上泊めて貰ったが、カンサスシティでは、旧姓柴田みよ、佐藤八千代、川崎美津江の三人の方がわざわざ集まって、米国人の御主人もろとも、私の歓迎パーティーを盛大にやってくれた。三人とも英語がアメリカ人なみになっているのに感心した。最後の講演はエリオット夫妻の教えているリンフィールド大学だった。同夫人は日本語を教えているときいた。ヒッピーのメッカ、バークレーではジェニンス夫妻と夕食を共にしたが、ヒッピーの街は、全く想像を絶するものであった。米国の崩壊の兆というものもあった。

(香葉会顧問)

桑川 光樹

あとにも先にも亀を助けた覚えはないが、はじめて短大の玄關に入ったとき、私は竜宮城を訪れた浦島の心境を味わった。タイヤヒラメがヒラヒラと泳いでいるのであった。絵にもかけない美しさでアルと思った。それから三年、しかし私の短大暮らしは、ただ珍しくおもしろく月日のたつのも夢のうちに過ぎたのではなかった。竜宮城のまわりには紛争の煙たちこめ、それも天下大変のあらわれ

あったが、気がついてみると私は、たとえ「女性の生き方」というような問題について、タイヤヒラメといふしよに考え悩まねばならないという、だいそれで大変な身の上になっているのであった。もう、ヒラヒラを「美しさでアル」などと言って澄ましてはいけないわけなのであった。

香葉会の皆様方を、私はまだ多く存じあげないのであるが、こうした今浦島の天下大変について、いずれためになる御意見をお聞かせただけの時のあるであろうことを、楽しみにしている次第である。もっとも、私が楽しみにしているのはそれだけではなく、私はそこにもう一つの、大きな竜宮城があるのだ、と何となく思いこんでいるのである。

(国文科・助教授)

望月 享子

九月に行なわれた日本心理学会で、連続加算作業のコロキウムに参加したところ、「最近のクレペリンのデータには異常型が多いので判定基準を再検討してはどうか」という意見と、「判定者によって多少のずれはあるがひどい異常型の頻度はそれ程ふえていない」という意見の対立が注目された。最近のデータの分布が従来のものからずれてきているこ

とは、手許のささやかなデータについてもいえることなのであるが、それは異常型の方向への単純な移行ではなくて作業量の増大による上位のタイプの増加と、異常型とまでではない疑問型の増加があり、その間のタイプが非常に少なくなっているのである。したがって、どうしても問題だという型の頻度が著しく増大したわけではない。

青年期の特徴というものはそのときそのときの社会的な背景によって左右されるから、これを心理、生物学的にとらえるよりも、社会的にとらえなければならぬといわれる。青年心理学を講じているとき、「先生」と元気な声がかかって、「私たち、そんな感じ方はあまりしませんけれど……」といわれると、成程やっぱりと思う。しかし、案外共通な面も多いのではないか、という場面にも遭遇する。紙面の都合で具体的な事まで述べられないが、先日「二十歳の原点」について学生と話しあったときも、そう痛感した。

要するに、「以前とは違う」とか「案外変わっていない」とかの判断を、前もってしてしまうと、思わぬ落とし穴にはまってしまうことを、改めて思い知らされたのである。

(一般教育・助教授)

徳永 透

今、短大館の外壁が化粧直しされて装いが新たになっている。「壁」はドイツ語では女性扱いの名詞の筈だが、英語の場合はどうだろうかと、とりとめのない空想を楽しみながら、研究室の外に深まって行く秋色に感慨を抱いていると、『香葉』へ原稿をという要望があった。約六〇〇字という制限付きなので気軽に受け付けた次第である。

来春四月には学寮の裏山の跡地に短大専用の体育館が完成する。同地への全面的な移転が決定し、いよいよ本学のビイジョンも鮮明に成って行くようであらう。

今年の秋のリトリートは「座標—日本人を考える」という主題で、イザヤ・ベンダサン著『日本人とユダヤ人』をテキストに使ったが、学生発表も分団討論会も盛況であった。

林学長を中心に恒例のソフトボールも行なわれた。下田・宮川両先生の活躍ぶりは例によって老いを感じさせない躍如たるものであった。今回のリトリートは学友会を中心に運営されたこととあいまって、学生中心の行事の感を呈したことが特徴といえるようだ。食後のスピーチがなくなっただけは淋しいが、全学

を挙げて寝食を共に語り合う山荘生活は本学の誇り得る有意義な行事だと思ふ。時は移り、人は変わっても建学の精神はこのように生きている、否、生かされねばなるまい。同窓生諸君の絶大な支援のもとに、本学が益々発展することを祈願するのみである。(合掌)

(英文科・助教)

吉田 博

讀美歌による入学式にドギモをぬかれてはや三年目、まさに「光陰矢の如し」の心境です。あの時、一緒に入学した食物栄養専攻の学生諸君も一回生としてすでに卒業し、現在は社会人として立派に活躍しているとの事で

す。嬉しく思っています。

一昨年の三月、学生としてではなく教師の立場から初めて卒業式というものを体験したのですが、その時つくづくと感じました。教師という職業はなんとむなしなものなのだろうかと。二年もの間、一緒にワイワイやってきながら卒業式でハイサヨウナラとは。しかし四月になり可愛い新入生諸君との付き合いが始まるとそんなセンチな事も言っていられない。例の如く、学生と一緒に白衣を翻しながら実験室を駆けずりまわり、学生のシイクに専念するのである。

五月になると彼女達の白衣姿がより一層映えるようになる。そして元氣潑潑とした彼女達を見ていると、短大生活にも慣れ、青春を謳歌している事を感じ、自分まで楽しくなるのである。しかし年齢の差というものはいかにせん仕方ない事で、常に兄貴のようなつもりで学生に接してきた自分なのだが、一年生曰く「兄貴というよりは小父さんという感じ」とは、どうやら自分で思っているより学生共は若く見てくれないようだ。でもこの際ほくの事はどうでもケッコウ、皆さんは皆さんで元氣に学生達に負けぬよう青春を謳歌されん事を祈ります。

(家政科・講師)



香報室



この欄は、卒業生の皆様の消息、感想文、詩、和歌、俳句、随筆等の発表の場として、用意いたしました。短大香葉会「香葉」編集局宛、次号への原稿を随時お送り頂きたいいたします。

想い出

山本 澄子

事情があつて、私は、六年間も在学しました関係で、古い話なら多少はいろいろのことを知っているつもりです。

その昔（今からおよそ二十二、三年前）、私達は、四つの塔のある、三春台の校舎で学びました。その頃は、小滝先生や、角田先生（現、中居夫人）、遠藤さん一家らが、教室と教室の間にある。細長いうなぎの寢床の様な、暗い室に生活しておられました。小滝先生が、オルガンを、持っているのを当時は大変めずらしく、又、ロマンチックに思つたものです。亦、丘の上の調理室へ行く階段のわきには、上市先生のスイートホームが在つて、先生は、そこで新婚時代を過ごされました。たまたま、主任の先生から用事をたのまれて、お宅に伺うと、奥様が、おめでた間近い大きなお腹をしておられたのをおぼえておられます。あれから二十余年——。その後間もなく生れたお嬢さんは、本校の短大を卒業されて、すでに社会人として、活躍されておられるのを御存じの方も多いと思います。三春台の下の校舎で授業を受けたのは、わ

ずか一年足らずでしたが、その間、バザーや、砂原美智子さんのオペラが上演されたりして、とても楽しい学校生活でした。中でも、特に想い出深いのは、早朝祈禱会が、塔の一室で行なわれたことです。今でも、時々、バスの窓から、あの塔を眺める時、朝霧にけむるあの塔は、まるで、ハムレットの映画の一場面の様だと強く印象に残っています。丘の上の新校舎に移ってから、想い出は、また、チャンスがあつたら書きたいと思ひます。

家のまわり

石田 禎子

私がかこ北鎌倉の山峡に移り住んで四年になる。陶芸家北大路魯山人が残したのぼり窯が前庭となるような豊かな自然の中に入つて心改まる様な日々であつた。魯山人が臥竜峽と名づけた山あいには、楓、檜の黄褐色と檀の紅葉が秋の彩りを一段と際立たせていたものであつた。しかししわずか四年の年月はこの自然の様相を一変してしまつた。昨年はここに市のモデル小学校が出来、又或会社の社宅が今建築されている。鳥の足跡のついでいた道も補装されて通学路になりきじが卵を生みお

としたあぜみちも今では埋立てられ、紫の藤の花が美しくにおった切通しもすっかり切り崩されて、運動場とかわりはててしまった。

窓越しにみる富士塚周辺の古頃のあった山々もすっかり切り開かれ大分譲地と変っている。散歩の道すがら見たきじ、山ばと、こぢゆけい、めじろ、藪鶯等の野鳥達も住みかを何処に求めているのであろうか。この辺りの自然は近代化され急速に変貌している。人間的には破綻のあった魯山人であったが自然の中にひたすら焼きあげた数々の秀れた陶芸はこの自然に培れたものであるうか。これからの自然を失った人間の行くえがどうなるであらうか、私はいつも此頃考えていることの一つである。

(短家1・旧岩井)

冬の雑感

福島 洋子

どこに旅しても、自分の好きな散歩道や好きな路地など出来るもので、面白い。

仕事柄、地方出張など多く、割に決まった場所に行く所為か、それぞれに、馴染が出来た。自分の住んでいる鎌倉は、近年、日曜のみいる有様で、散策するのも、だんだん回数が少なくなってきた。それに反して地方に行つて

は、中々忠実にブラついている。

札幌に行くとは足をのばし、必ず、銭箱せんばこを通り小樽に行く。横浜港と異なり、北洋漁業隆盛の頃の面影はないが、中々のんびり風情があつて良い。ゴメ(かもめ)が又中々多い。そして小樽の寿司は抜群。

仙台も冬は中々良い。支店が国道添いなので、市中に出るのはいつも遅く、夜になる。一番丁あたりの横丁は、鉄の火鉢につきさした魚に荒塩を叩きつけ焼く煙で一ぱいになっている。一寸脇に入ると、仙台一のこけしの蒐集家である主人のやつている、「ろばた」があり、ランブで本当に風情のある。その小さな店には必ず足を運ぶ。伊達独眼流のお困柄、地の笹天賞ささあまも中々良く、旅籠に帰る迄心よくぬくもりが残る。すべらない様に用心しながら歩くのも楽しい。

冬の奥石廊も中々趣きがある。民宿も、夏と異り、接待がこまやかである。朝一番の舟から上った魚が即、朝食に出るのもうれしい。なぎの海は、都会のわずらわしさを除いてくれる。仲木は私の最も好きな岩場である。冬の海にもぐるのは気持ちのよいものであるが近頃は冬に入る勇気が、なくなった。

これも年の所為か。さびしいものである。

(短英4)

良き師良き友と

安部 純子

短大時代のアルバム三冊、何か思い出をとの御依頼を受けて、久しぶりに頁を開いた。仕事熱心な主人と、やがて高三才になる娘の世話に忙しく過す毎日、思えばこのアルバムを開くこともあまりなかったのだが。

第一頁には、校舎の正面、坂田学院長、白山学長、相川学部長のサイン入りのお写真がある、中頃には三頁にわたって、伊豆、嵯峨沢での修養会のスナップが見える。先生方より意義深い講演の数々を承ったことと思うのだが、記憶に残っているのは次の二つのこと。夜各グループより凝った余興が出された。庄巻は家政科の塩沢さん達の新聞紙製ウエディングドレス。このスカートがあるっていた。マタニティ兼用で、順次ウエストがひるげられるという代物、つまり、最近流行の巻きスカートの起源とも云うべきもの、流石は家政科、十五年も前に、今日の流行を予言していた訳である。彼女のニーモア溢れる口上に、平静あまり表情を変えられぬ相川先生

も肩をゆすって笑っていられたお顔が浮んでくる。

もう一つの鮮やかな印象は、小玉先生と、当時新任のお若い長野先生。何枚かのスナップでもお二人は常に隣り合っている。何事にも興味津々の若い女性のこと。私達はお二人を話題にし憶測をとぼした。やがて御結婚。お二人の先生のロマンスは、この時芽生えたものと、この学年では今でも確信している次第である。

各頁に見られる柳生先生は、当時英文科主任教授でいらつしやうた。或る日の英文法のクラスに、先生がパパになられたとニュースが伝えられた。誰かが黒板に大きく「Congratulations」と書いた。長身を曲げるようにドアからスツと入られた先生、やおら黒板を見やり一言、「ありがとう」と云われた。そして子守歌を教えてくださいましたのだ。

私達のクラスは何事につけ、良くまとまった。合唱コンクールといえは全員が熱心に練習し、一位を獲得した。クリスマス之余興に「貫一・お宮」の英語版を演じ、満場の拍手喝采を浴びたこともあった。「Frailty thy name is woman」の名台詞とともに高下駄でボンとけとはすハムレットならぬMr.貫一に

鈴木さん、ヨヨと泣きくずれるMrs.お宮に東さん、お二人とも九州の出身で、寮生活を共にしていた名コンビだった。擬音の係、装置の係、バックコーラスの係等全員一致の協力だった。これも一位となり、チヨコレートの賞品をいただいた。

またたく間に過ぎ去った二年間ではあったが専門の学業のみならず人生を悟して下さった諸先生方、知り得た幾多の友の誰彼を思い起すにつけ貴重な年月であったと思うのである。

先生方の御健康、久しく逢わぬ友の御多幸を心より祈りつつ。

(短英6・旧雨宮)

英文科二部の

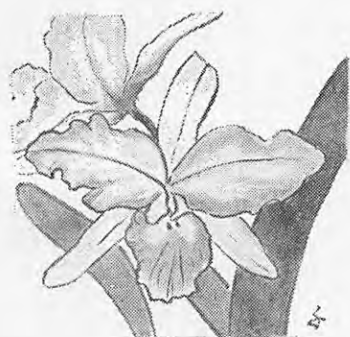
学生として

小島 美決

昭和三十三年三月、私は関東学院短期大学二部英文科に入学願書を出した。テストはただ面接があっただけで、柴先生が書類と私の顔とを見較べて「何故英文科を志願したのですか」と言われた。私は「英語がニガテだからです」と、ただそれだけ答えた。「ま、いいでしょう」それできまってしまった。

これより約一ヶ月前、私は横浜市立大学の図書館で職員の募集をしていることを知り、応募して幸いにもパスし、三月一日から勤め始めたばかりであった。その前は防衛大学の図書館にいたのであったが、家からあまりにも遠く、通勤に時間がかかりすぎるのと、もう少し学校へ行つて勉強がしたいと考えていたので、思い切つて勤め先を変えたのであった。

正直なところ私は、自分が英語はニガテなことを知っていたし、国語国文に相当興味があって、自信もあったので、どこか国文科のあるところへ行きたいと考えていたが、勤め



先から近いところで、文科系の学科のあるのは関東の英文科だけであったし、まず始めに不得手な科目からやってみるのも一つの方法だろうと思つたので、関東へ入ることにした。

こうして半分は自分の意志で、半分は止むを得ずに関東の英文科に入ったのであるが、これが、それから九年間に及ぶ宿命のような夜学生生活のスタートとなるとは思ひも及ばなかつたし、まして、夜学を終つてから受験した横浜市係長昇任試験の一般教養の論文に最高点を取る結果となるとは知る由もなかつた。

(短英二七)

友人の消息

金子 貞子

早いものです。卒業して十数年の歳月が流れました。皆様如何お過しでしょうか。その間学校にもクラスメートにも子供が小さいため中々お会い出来ない日々です。今年の夏、親しくしていたクラスメートに久しぶりにお会いいたしました。彼女は卒業してすぐ恋愛結婚をしました。誠実で、美しくつつまじやかな彼女は、明るい家庭をつくり二人の男の子に恵まれ幸せな奥様でした。今から六年前の十二月の事です。どこもここも急がしい年の

暮でした。彼女の御主人は朝いつものように家を出、会社に向つたまま連絡がとだえまして。蒸発してしまつたのです。本当です。何の原因もいさかひありません。まるで雲をつかむような出来事です。それから一日、

二日、一週間、一ヶ月、一年と毎日毎日彼女は子供達と首を長くして、いつか突然帰るであろう御主人を待ちました。……長い年月に何の手がかりもつかめず無我夢中の日々が流れてしまいました。二人の子供のためにまた自分にうちかつために、新しい人生の再出発をしました。母女寮に入り現在四年と二年の子供達を学校に見送り、そして彼女は働いています。でも元気なお顔を拝見し安心いたしました。＃どんなつらいことも、その気になれば何でも出来るものね＃彼女の言葉の中になにか力強さを感じ、又言い知れぬあつい涙をこらえずにはいられませんでした。私ども毎日の幸せに神に感謝し、彼女の御主人の消息が一日も早くわかりますようお祈りいたします。

(短英九・旧青木)

私の近況

蒲田順子氏

同窓生の皆様、そして諸先生、如何お過しでいらつしやいますか。早いもので、短大卒業後六年の月日が過ぎ去ろうとしております。

本日は私の近況をひと言お伝えたいと思います。

短大卒業後、秘書養成学校を経て外資系会社に勤めておりましたが、昨年結婚し現在は主婦業に専念しております。とは申しても二人だけの生活では、さしたる仕事もなく、機をねらつて再び外へ飛び出そうと色々案を練っている最中です。在学中から、＃生涯の仕事＃を求め続けておりましたが、今だにこれぞと思うものがなく、あせりを感じることにきりなのですが、何分にも決断に乏しい私のこと、迷い続けて終ることのないように、祈らざるを得ません。ともあれ、関東学院の「人になれ、奉仕せよ」の精神を座右の銘に今後共歩んで行きたいと思っております。

(短英15・旧鈴木)



短大二部の回想

最後の卒業生として

黒鳥 佳臣

昭和四十二年三月十九日、私達短大第十五回卒業をもって、短大二部英文科は廃止されたのであります。

社会一般の通念として、二部と言えは社会的条件、時間的制約、及び経済的問題に追われ、やや暗いイメージを持たれがちでありますが、短大二部の場合一学年一クラス、しかも三十名に達しない少人数のまさに「家庭的クラス」で行なわれたのです。

通学するものといえば、警察官、看護婦、公務員、小学校の教師、主婦等、様々な職業人で、昼の仕事を離れ、年齢をこえた明るい雰囲気に満たされました。特に印象的なことは、先生方の授業で、極めて厳しい反面、非常に有意義な内容だったということであり、先生方のご指導に対する誠意、厚意にこの上ない感謝を与えられました。学院の精神「人になれ奉仕せよ」先生方ご自身、身をもって私達に示して下さった思いがします。

卒業後、級友の森谷、国津両兄と明治学院大学への進学之机を与えられ、大きな教

室、多勢の学生の中に出て、初めて短大二部の「特異的存在」を知ることができたのです。

関東学院短期大学二部の回想はつきないし、又楽しいのです。私の精神生活の揺籃は短大二部にあります。そんな短大二部が廃止されたことがこの上なく惜しく、淋しいのです。
(短英二・15)

香葉会に思うこと

奥村 悦子

「香葉」の創刊号を手にしたのは、確か、まだ暑い頃だと思いました。そして、第二号を発行するに当って、現在、卒業後短大事務及び研究室の副手として勤務しておられる方

が、連日、仕事の合間に原稿の割り振りや、印刷の手配等に、忙がしく飛び回っておられます。そして、暫く卒業生一人一人の手元にこの「香葉」が届くわけです。その間にどれ位の時間を要するのでしょうか。三カ月あるいはそれ以上でしょうか……。兎に角、とても大変な事だと私自身が気付いたのが今年の九月です。

卒業後、二年半程勤めた会社から、懐かしい古巣に就職したのがこの秋の事です。そして、早速「香葉会」の学内幹事選出にその対

象者として参加しました。それ迄は、ほとんどの卒業生と同様に自分と香葉会との係わりを考へることがありませんでした。私達は、とかく、自分が一対一で立たされぬ限り、新しいものに対しては、消極的になりがちですし、毎日を規則正しく、平穩に暮そうとはしますが、そこから一歩外に目を向ける事に躊躇してしまふのではないのでしょうか。

短大は、私の在学時と雰囲氣的には、かなり異なりますが、相変わらず女性らしい(?)集団だと感じております。そして、同じキャンパスにある大学は、現在、学費値上げ反対でバリケードスト中です。

構内の茶褐色の芝生が目立つ頃となりました。短大の香葉会が、お茶を飲む暖かさにとどまるだけでなく、卒業生各自が、その環境の違いに依って直接参加できなくても、自分達の同窓会としての暖みを、この「香葉会」に覚へることができたら、とても素晴らしい事だと思ひます。そして、その様な会に成長する事を心から願っております。

久しぶりにペンを執り、思うままに書いてみました。諸先輩方からお叱りを被るかも知れませんが、この頃こんな事を感じております。

最後に、「香葉」の編集に当って下さった方々、本当に御苦勞様でした。

(短英18・旧大谷)

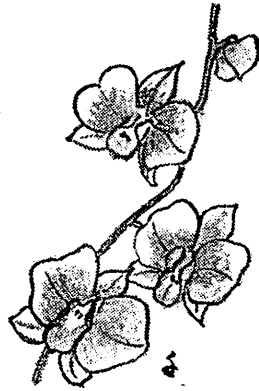
動きの中の女性

笠井三起子

スシ詰ならぬごったまぜの電車にゆられ、会社に通い、多少の摩擦をおみやげに帰途に着く。そして回りを気にし、年を考え、この辺で手を打とうかと、結婚という(もちろんこんな簡単ではない)小さな社会の中に入りこみ、育児に、主人に、勤める生活。これは本来、本当の平和なのかも知れない。しかし結婚という共同生活の中においても、もう少し違う次元で動いている女性も少なくないと思う。はたしてそれが良いか悪いかと言われると自分にもわからなくなる。が、「永久就職」という言葉で言われる中にどっかと座わりこんでいるのを回りで見ると、ゾーッと入り込んでいるのは、男性の分野にも少しづつ入り込んでいるし、少なくとも平塚雷鳥さんの時代から見れば、ずいぶんの自由があるし、本来の女性ありたるべきを自覚していれば、その自由を棒にふることもなく、あらゆる場所に首をつっこんで生活の資源にしてもよいと

思う。それで男性が髪面をしたら、押し寄せる波にのまれづ、もっと上をいけと言いたい。ともかくにもゆつたりとレコードを聴くことも、手芸をしていることも結構、何しろおばあちゃんになっても、絶えず何かをしていて、活躍していようではありませんか。

(短家18・旧鳥山)



あのことろ

Y・N

卒業後、早や二年の月日が流れようとしています。先日証明書をお願いしに学校に伺ったところ、丁度大学祭の片づけの日に当り、早朝でもあり、学内はととても静かでしたが、短大前の池も、事務局の窓口も、在学当時をなつかしく思い出させてくれました。

在学中の大きな収穫は、良き師、良き友達との出会いであったと思います。天城山荘でのリトリートの折や、課外活動において、またアドバイザーを囲んでの集りや学校での日々の生活に助言助力下さった先生方、楽しく過した仲間達、皆忘れられぬ思い出となりました。しかしながら、私自身、平素無気力、不真面目で、講義の声を心地良く聞きながら午後の仮眠に落ち入ったり、窓外の緑に誘われて鎌倉への脱出を企てたりしていました。大学の立地条件の良さもあって、以来今日もなお、鎌倉は私にとって大変身近な、親しみ深い地となりました。先生に案内していただいた東慶寺の水月の像など特に印象的でした。美しい自然環境に囲まれた母校が、増々発展されます様お祈り致しております。

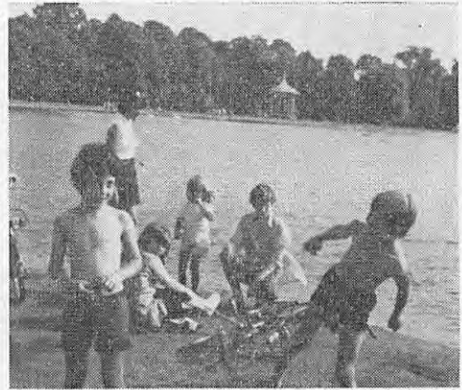
(短国3回)

ロンドンを訪れて

新井美智子

私の乗ったKLMジェット旅客機が霧の都ロンドンに付いたのは正午を少し過ぎた頃でした。雰囲気はガラリと変わり、一年中、月の十日は雨が降るそうで、灰色に沈んだ建物が重々しく感じられました。イギリスの雨は

サツと降ったかと思うとすぐ止み、又降り出す所からシャワーと呼ばれています。このように、日に何度もシャワーがあるので、山高帽子に蠅蠅傘という英国紳士のトレードマークにもうなづけれます。英国人は誇り高く伝統を尊び、自然を愛し建築物を慈しみます。「設計者は時、建築者は国」と歌われる荘厳なウエストミンスター寺院、国王の戴冠式の行なわれる所でもあり、歴史上有名な人々の墓があります。ダーウィン、ニュートン、ディケンズ等。しかし墓碑はなく地面の石畳に銘が彫られているだけで、私たちは恐れ多くもこの偉人たちの墓の上を歩かなければなりません。又、英国人は休息を重んじます。ロンドンのあらゆる公園で食後の一時を、思いのままに過ごす光景が見られます。水着姿での日光浴など日本の公園では考えられないことです。日光の少ないイギリスならではのこともありません。このようにロンドンには古い歴史を持つ町、が、ピカデリサーカス、リージェント街、オックスフォード街とカーナビストリートのヤングフアッシュンやミニを生み出した若い街でもありません。どこからともなくやってきた若者達が気ままな色とりどりの服装で集まり、ヒッピー



一 ハイパークにて一

がギターを弾いてお金を集めたり、ビール工場を見学するとただでビールが飲めるといので朝から長い列を連ねている若者達、ここからビートルズが発祥したのも何となく理解できたような気がしました。古い伝統と新しい世代の入り混じった街、ロンドン。今、又、新しく変わりつつあるように思えます。

(短英20)

私の一日

小林 恵

私は、今年の三月に栄養士としてあるデバ

ートの社員食堂に勤務しました。そこでの一日を述べさせてもらいます。まず八時に出勤です。もともと朝が弱い私に、この時間が適当であるはずはありません。三日に一回は遅刻です。その時は、何気なくあくまでしらじらしい顔で「おはよう」と一言いいます。するとさかさ主任が「あまり夜ふかしばかりするなよ、彼氏によるしくな」等と考えすぎな事を言います。着がえ、事務所の掃除を終え、昨日の売り上げ計算をして銀行に現金をもってゆきます。あとは私の時間で、献立を作ったり、明日使う材料の注文をしたりします。この注文が問題で、もともと余り落ちついているとはいえない性格の為か、年中オーダーミスをしします。そんな時は知らん顔をして聞かぬふりをしますが、情け無用、おつかいかごと共に北風の中におっぼり出されます。11時30分に食事が始まります。デパートなので女店員がほとんど。もともと女嫌いで有名な私。ハキ気を押えて食券売りに精出します。定食の献立は私が担当しています。ですからなるべく定食が出る様に、「きょうの定食は、おいしいですよ」「栄養満点」「御飯も大盛り」などと品のない事を言ってます。休憩を一時間とり、食事をして、食

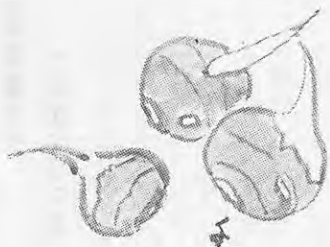
券を数え掃除を手伝い、金庫をしめて会社でのあわたたしい一日が終ります。

(短家20)

集いの窓

“おひさしぶり”

今回から“おひさしぶりコーナー”を新設いたしました。卒業生の皆さんの行なわれた同級会、その他の小会合の模様を紹介し、私たちの香葉会をさらに発展させるために少しでも役に立てればと考えております。小さな会合でも結構ですので、それを二百字以内ぐらいにまとめて報告してくださいませんか。



家政科十一回生クラス会

私達の第五回クラス会は、七月二十七日(火)に鎌倉中桐寮で行なわれました。福島県で、中学教師をしている方が、研修会で久し振りに出てこられるとのことで、急に幹事を仰せ付かってなされたことでした。卒業以来九年も経っていますから名簿を見ただけでは一寸思い出せない方もありました。アルバムを見ながら通知の葉書を書いているうちに、在学中の様々な事柄が、その時の表情までもが思い起こされてきて、ひととき懐かしさにひたってしまいました。一クラス五十九人へ案内を出して、四十四人から返信があり、あと十五人の氏名、現住所の調査が残されています。当日は、上市、下田(鳥越先生は御欠席)先生が御出席下さり、十六人の元生徒に十四人の可愛らしい子供が同伴して来て、太層賑やかでした。福島、千葉、神奈川県の各地から、愛知県、丁度静岡へお里帰り中の京都の方等、ほとんどの友が、世話のやける小さな子供三人という時に、その子達の手を引いて、よく出席なさったことと思わずにはいられませんでした。上市先生から短大の著しい



発展の様子を伺い、驚きと共に大変心嬉しく、次は是非学院でいたしまししょうと即座に決まってしまうました。また写真をたくさん撮っていただいたのでよい記念になりました。皆夫々に、一生懸命考えたり、喜こんだりしながら、幸せな毎日を送っておられるそうです。三年ぶりの楽しい夏の日でした。

(短家11・小林三佐子記)

家政科食物栄養専攻

一回生クラス会

待つに待たれず散々と太陽の照りつける七月、私達、家政科食物栄養専攻一期生は、クラス会を野毛の喫茶店「ニューコマチ」で開きました。お忙しい中を、林学長、吉田先生に御出席をいただき参加者約三十名が、学生時代の思い出話や職場での出来事などの話に花を咲かせ、終始なごやかなうちに会を閉じました。(短家20・白井美晴記)

女専一回生の同期会

しばらく途絶えていた女専第一回生の同期会が開かれたのは、まだ残暑の酷しい八月二十九日でした。でも窓を開け放つと港から吹き上げてくるのか涼しい風が吹きぬけて庭の芝生が緑に輝いていました。当日御出席いただいたのは、私共が在学中、基督教倫理、英会話などいろいろな面でお世話になった時田先生。女専創設当時の一方ならぬ御苦勞談から現在までの御活躍ぶりを拝聴。当時はまだおいでにならなかったのので始めての方も多かったです。林現学長。現在の短大の

状況と将来についてお話いただきました。またこの会の為、はるばる芦屋からかけつけてくださった安沢みねさんは今もお神戸女学院で教鞭をとっておられます。相変わらず各方面に御多忙の由。御主人の転勤でモスクワに行かれる予定の中根悦子さん。これから、我が青春とはりきる小山郁子さん。当時からまだおちいさかった坊やが、もうお嫁さんを貰いました、と杉崎日出子さん。家政科からは唯一人の出席者佐藤久子さんはゴルフ、スキーと夫唱婦隨。紙面の都合で御出席の皆様



全員の近況をお知らせできないのは残念ですが、それぞれ家庭の主婦として、社会人として確実に幸せに歩んでいる御様子。午後のおとぎがまたたくまに過ぎてしまいました。学生時代あんなに潑潑で美しいソブヲノをきかせて下さった菊池れい子さんは今年の二月、白血病で亡くされました。最後に皆で彼女の御冥福をお祈りして名残りを惜しみながら散会しました。(専英1・竹村久子記)

英文科二部十五回生同級会

短大英文科二部十五回卒業生による同級会が昭和四十六年十一月二十三日(火)午後五時より横浜中華街・横浜大飯店に於て開かれた。兵藤正之助先生、柴三九男先生、菊池庄吉先生もご出席いただき和やかなひとときをもった。本年は結婚した女性群が多く、出席準備その他でお忙しく出席が少なかったが、中武佳子(幹事)を始めとして雑賀紀子(旧酒井)、牛山保子(旧木許)、森谷弘、国津師郎、黒鳥佳臣と共に秋のひと夜を楽しく過し午後八時半頃散会した。

(短英二15・黒鳥佳臣記)

覚え書 (二)

— 女専・短大小史 —

上市 二郎

昭和二十四年三月三日フェリス女学院の先生方と共に本校校長室に於て将来のジュニアカレッジ(以下J・Cとする)に対する懇談会が開かれている。特に家政科関係は論議が多方面にわたり、まとまりがつかず改めて十七日に協議会を再開した。いかに家政科の科目内容が範囲が広く複雑であるかがうかがわれる。五月には全国私立学校協会でもJ・Cの問題が取り上げられており、六月十七日には文部省に於てJ・Cを希望する学校を集め説明会を開いている。七月には本校でもJ・C設置委員が決定され研究会が進められていた。九月七日には文部省の設置基準が明確になり教科課程、教員組織、教員の資格等が定まり、本校の入学定員は英文科八十名家政科三十名夜間(当時は第二部と云わなかつた)英文科八十名とすることに決定した。女専当時の教員室は直ちに改造され、一部屋に二角

至三名位の研究室として四つに分けられた。地下室に図書閲覧室及び書庫を作り、調理実習室(当時は割烹室と云つた)の改装など含めその準備は並大抵ではなかつた。九月二十一日には設置申請書作成のための委員が選出されて日夜書類作成に全力を投入しており、月末には研究室の割当が始められた。

肌寒さを感じる十一月ともなると図書室の暖房費を月額五円徴収することになり早速学友会に提案し実施されているが、当時は宣教師の方々のお骨折りによつて駐留軍により古材を週二回運んではグラウンドの片隅に積み上げられていて、それを生徒の奉仕によつて自由に教室暖房に使用していたものです。

燃料ばかりか当時は食糧も衣料も大変貴重な時代で、六月に米国よりケア物資(キリスト教関係団体よりの援助物資)が各教職員に一箱づつ配給になったときは宝物に接した感じだつた。その頃、前後してテラ物資(北部バプテスト教会員の援助衣料)が到着、生徒にも分配され、後日通学に着用してくる者もあり枯れ木の丘に花が咲いたような感じを受けた。中には配給された衣類のポケットに心のこもつた手紙やカードが入つていて、そのきっかけで交通を続けた方もあつたと記憶して



— ケア物資を手にもつて —

いる。実に心の暖まる思いがする。

女子高もあつたためか、この頃の思い出として残るものに映画教室がある。授業の一環として計画され、今は無き野毛町の国際劇場や、伊勢佐木町のオデオン座、馬車道の横浜宝塚劇場(現在の市民ホール)などを利用して『嵐ヶ丘』『子鹿物語』『わすられた子等』『苔草物語』『源氏物語』『聖衣』等を生徒全員が觀賞する機会が度々あつた。

明けて二十五年、短期大学(このときよりジュニアカレッジの正式名称が短期大学とし

て使われるようになった)の審査が一月二十四日に行われたのである。そして三月中旬には昼間部英文科、家政科、工科、経済科が認められ夜間部英文科、工科、経済科は認可されなかった。そのため明年改めて英文科のみ申請することとなるが、その間英文科の夜間特別講座を開くこととなった。名称は関東学院大学短期大学部として発足したが、昭和三十三年三月をもって工科、経済科を廃止した。これは、工科、経済科が六浦校地、英文科、家政科は三春台校地で、教員も事務局も経営も別個に行われると云う複雑な組織のもとに出発したためである。従って女専を母体とする英文・家政両科の女子のみの入学式が新入生五十六名(英文四二名家政一四名)を迎えて四月二十八日午後二時より挙行されている。

夜間の特別講座は三十五名程の学生数でスタートしたが、全学生が昼間職業をもつ社会人、真面目で授業態度は実に熱心だった。職場をあとにして午後五時三十分の始業ベルにおくれぬよう、あの丘を駆け上ってくる姿は今でも目に浮びます。当時は食堂の設備もないこともあって食事を取る時間のない彼等はパンや今川焼などを食べながら、あの幕場の

横の暗い道を上ってくるのか、口もとに顔を上げて平気で登校する微笑ましいお顔にも時折お目にかかった。中には教室まで差し入れてくれる学生もあって、家族的な和やかな雰囲気があった。

当時の修養会は二十四年夏、六浦校舎を使つて実施しており、翌年の夏は葉山一色の下山旅館で行っている。

この年の夏は運動部主催の赤城山に於ける最初のキャンプが計画されているのも良い思い出の一つだろう。秋には女専・女子高最上級生の関西(京都・奈良・大阪)修学旅行が十月二日より六日まで実施されているが、その注意事項の中に次のことが書いてあった。「持参品は弁当二食分、米、丸合、寝間着」と。

翌月九日より十三日にかけて三春台・六浦合同の大学祭が計画されて、初日の大学祭式典にはわざわざ六浦まで女専・女子高・短大生全員参加のため出向いたのである。式終了後は平潟湾にボートを浮かべ和やかな半日を過ごし、一方岸近くでは競漕も行われていた。夜は再び三春台に戻りロマン・ロラン作『愛と死の戯れ』が上演され、又、ある一日は全員参加のスタンツ大会、思い思いの趣向

をこらした各クラスの作品が飛び出して一日を楽しく過ぎたものであった。(つづく)

事務局へご協力を

会員の皆様にお送りした年賀状・学報等学校よりのもの、ならびに總會通知などが多量に返送されてきています。お送りしたものはすべて無事にお手元に届くよう次の点に關しご協力をお願いします。

イ、結婚などにより住所・姓名が変更の場合には必ずお知らせ下さい。

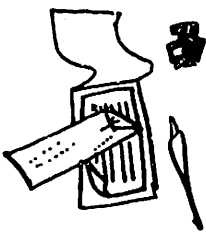
ロ、転居並びに住所表示変更の折も必ず新住所をお知らせ下さい。

ハ、知人の変更を知った場合友人の消息としてご連絡下さるようご協力下さい。

関東学院女子短期大学

香葉会事務局

(横浜市金沢区六浦町四、八三四)
(電話 横浜(七八)〇一四八)



各科だより



英文科

本年三月、英文科の学生による文集の創刊号が発行されました。誌名についてはいろいろの案が出ましたが、結局、平凡ですが親しみやすい「Campus」に決まりました。この号には語法研究、英米文学作品鑑賞、シニイクスピア劇公演の感想、訳詩、カナダ旅行記、アメリカに帰られた先生からのお便りなどが収録されています。第二号からは卒業生の声なども掲載したいという意見がありますので、やがて依頼が行くかもしれません。その際はよろしくお願い致します。経済的な制約もあって、卒業生の皆様にお送りすることはできませんでしたが、まだ多少残部がありますので、ご希望の方には差し上げられると

思います。

もう一つ新しいことは、四十六年度から図書館司書課程および学校図書館司書教諭課程が開設されたことです。これは英文科と国文科の学生が対象となっています。今までは教員免許状（中学二級）だけだったのが、今年からは司書の資格も取れるようになりました。これまでは在学中または卒業後に他の学校で資格を取る人がいましたが、これからは卒業と同時に資格を取ることができるようになります。

恒例の大学・短大共催のシェイクスピア劇は十二月十五・六日に青少年ホールで上演されました。出し物は「ロミオとジュリエット」で短大からもジュリエット、モンタギュー夫人、キャピュレット夫人などが出てました。（文責・小玉敏子）

国文科

国文科も昭和四十六年三月に四回生を送り出し、卒業生の数もおよそ四百人近くになりました。国文科の雑誌「平鳥」に葉書を寄せてくる人たちが、あるいは学校を訪ねてくる卒業生たちの話から、或る程度の人の消息は分りますが、多くの人については、こちらで

「どうしているかな、あの人は。」と考えてみるばかりです。時々連絡をしてほしいと思います。十一月の短大祭の時には、大勢の卒業生が来て下さったので有難く思いました。普段の日でも、歓迎いたします。

さて、「平鳥」4号を十二月には刊行しますから、希望の方は研究室宛に連絡して下さい。勿論、昭和四十六年三月に卒業された方々には、研究室から全員に送ります。内容を紹介しておきますと、大城先生の「非信者漫語（日本人を考える）」、卒業生・在学生のレポート集のほか、鎌倉（源実朝、夏目漱石関係）前橋（萩原朔太郎）の文学散歩の報告を載せました。それに、卒業生通信は例年通りです。一回生、二回生あたりの通信が途絶えがちです。是非、研究室に葉書を寄せて下さい。結婚した人は、挨拶状を研究室に送って下さい。それも有難いと思います。二年間の学生生活で馴染みが薄いかもしれませんが、それも皆さんの気持次第で深いものに変り得ると思います。（文責 岡松和夫）

家政科

家政科では、本年度から食物栄養専攻課程の定員を四十名から八十名に増員しましたの

で、現在の家政科学生数は、約三百五十名になっていきます。創立当時僅か十四、五名しかいなかった頃のことを思い出すと今昔の感にたえません。

この四月には、本学卒業の最初の卒業生を送り出しまして、病院、保育園、大学研究室、会社の研究所など各方面でその専門を生かして、大いに活躍しています。

学生の数がふえ、各種の施設も整えてきましたが、もとより教科内容の充実が第一であることは申すまでもありません。今まで幾度か内容の改善、向上を図ってきましたが、来年度からは、根本的に改革されたカリキュラムを実施し、新しい家政専攻課程を歩み出すとしていきます。それは私達の生活の領域が拡大され、また生活を構成する諸要素に急激な変化が見られる今日、これまでの家政学の概念では対応できないことが起きてきましたので、人間中心の家政学の学問としての体系を整え、これに即応する教科目を設定しようという意図のもとにカリキュラムを組み直したものです。

現在、家政科長は、林学長が兼任しておられ、きわめてご多忙の中を、アデオバイザーもなされ、あたたかく指導に当たっていられます。

す。今日の家政科の発展の基礎を築いて下さった松垣先生もお元気で週一回出講され、学校においてになるのを楽しみにしていらつしやいます。井口先生も、この夏はヨーロッパへ旅行なさったり、ますますお元気で教育に専念されています。山下、成田、佐々木、山口、吉田の諸先生もお元気で、研究に教育に当たっていらつしやいます。渡辺先生はついでの間、坊っちゃんがお生れになりました。「実習助手の陶山さん、副手の布谷、細田、白井、大場の皆さんも熱心にお手伝い下さっています。」鳥越も年々変る学生気質におどろきと新鮮さを感じながら四階で元気に過しております。

卒業生の皆様、おひまの折、お顔をおみせ下さい。母校の発展の様子をご覧下さいませ。

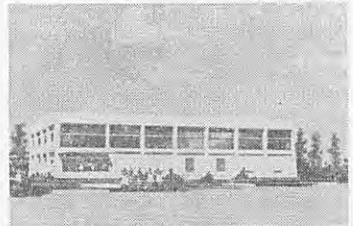
(文責・鳥越ノリ)

母校ニユース

☆図書館学講座開設・本年四月より図書館学の授業を開始。国文、英文両科の学生は在校中に所定の単位を取れば図書館司書及び司書教諭の資格が得られるようになった。

☆女子体育館建設中・女子寮裏手の山は昨年夏に姿を消して平地になった。そこに待

望の体育館が久米建築事務所的设计により熊谷組の施工で目下建設中である。総工費七千余万円、更衣室、シャワー室、卓球室、研究室等各種体操器具を備える総面積一六一平方



— 体育館完成予想図 —

方米のものが四十七年二月下旬に完成する。

☆およろこび・・・叙勲—島村環教授はこの秋、勲三等に叙せられ瑞宝章を授けられた。—出産—英文科加藤紀子講師及び家政科渡辺紀子講師の両紀子先生はこの秋申し合せたように男のお子様をご出産。又教務課吉村昌久係長宅にても十一月に男子誕生。—結婚—この春英文科佐藤みさ子副手(英文17回卒)は三月末挙式、宮地さんと變つてL・L並びに研究図書業務に活躍中。英文第二部13回の御園和夫講師は九月二十六日に挙式、益々張切つて香葉編集にもひと役買っていただいています。体育の授業を補佐しておられる陽出美智子さんは十一月二十一日に挙式、新しいお名前は田山さん、ご主人様も体育の先

生とか。庶務課中村英夫係長は十一月二十八日に挙式、奥様は同窓会員、英文14回卒の谷妙子さん、益々本会のためにご支援下さるとか。

☆退職者・新任者・卒業後直ぐに教務課へ就任された英文15回卒の春田宏子(旧松本)さんはおめでた近しと七月末で退職され、同じ教務課の英文16回卒諸橋和子(旧中家)さんも八月末に退職されましたが、この秋兩者共に男のお子様をご出産とのこと。英文16回卒の近藤節子さんは家庭の事情で十二月末をもって教務課を去られました。四月から家政食物専攻1回卒白井美晴、大場章江両嬢が副手就任。六月に国文2回卒神藤敬子さんが教務へ、七月に学生課へ英文20回卒渋谷香代子さん、九月には英文18回卒奥村悦子(旧大谷)さんが教務へ、家政20回卒高橋民子さんが学生課へそれぞれ就任しました。

短大祭をふりかえって

交通事故の多発、さまざまな公害など私達をとりまく環境は日々悪化しているような気がする最近の世の中です。こういう中で生きる意味について考えない人は恐らくないでしょう。そこで私達は、短大祭のローガン

を「生」に致しました。時流にもマッチしていたせいでしょか。予想以上の関心が寄せられました。とても嬉しく思っております。今年も常任委員の有志で、バザーを行ない、その上映会も都合で一日だけでしたが、皆様にも楽しんでいただくことができ幸いに思っております。一番感謝したいのは、好天気に恵まれ、屋外の各クラブの模擬店に何の支障もなかったということです。

短大祭のことを残らずお話しする紙面もありませんので、詩らしき散文でしめくくらせていただきます。

短大祭

二十の輪が回転した。
そしてローガンが生まれ、
三日間の催物は順調に行なわれた。
「プログラム」と「ポスター」だけが形として残った。
けれどそれ以上に大きなものをつかむことができた、私たちは。

(短大祭常任委員会)

◇リトリート

十月初め二年次生リトリートを行なった。主題「座標」。テキスト、イザヤ・ペンダサ

ン著「日本人とユダヤ人」。

持参品、聖書

讚美歌、便覧

セーター、常備薬。主題講演、国文大城、家政下田・佐藤、英文加納の各先生。日本人とは何か。日本人を生きるとは何か。日本人にとって神とは何か。真剣な質疑、討論。いわゆる日本教をめぐって学生発表も多彩であった。親睦会は大いに騒いだ。下田先生の可愛いセーター服姿、英文科教員総出演の寸劇「ノソミの結婚」など。サカナにされた新婚の御園先生はうらやましくも気の毒であった。毎朝六時起床。朝の音楽。兩けむる天城連山。朝拜、体操、と一日がはじまり、一日がおわれば、夕拝はフォークソング礼拝である。「歌が好きなら、だれでも友達、おんちな人だ……」若い歌声が礼拝堂を満たして流れた。学友会やクラブの人たちが運



ノソミの結婚



一 体 操 一

がします。

▽美術部

私達は、単に美術活動だけでなく、広く芸術活動を助長することを目的とし、年四回の合宿、短大祭、及び学外活動として野外スケッチ、展覧会見学、それに部展として新人展、卒展と併せて卒業生との交流をはかる燦美展を設けてクラブの向上に努めています。

▽ユース・ホステル・クラブ

私達はYHを利用して旅をするという立場を取り、その中でYH運動を追求し、サークル活動のあり方を考えてきました。何よりも部員同志の交流を重視し、活動を続けたと思います。

▽E・S・S

私達は日常会話のマスターを目標に、毎日お昼休みには松本享のラジオ会話を勉強、その他に神奈川E・S・Sリーグのフェスティバル、デイスカッションと講演会に参加、短大祭にはスピーチの発表会を行い、又土曜及び休日を利用して鎌倉ガイドターミナルでの外人ハンド等も行いました。

▽箏曲部

昭和四十一年四月に発足して、五年余りのまだ駆け出しのクラブですが、今年は十一月

に他大学の尺八部と合同の第一回定期演奏会を開くことになり、そのための強化合宿、強化練習を行い、技術的にも、又クラブ内の和という点においても、比較的充実した年であったように思います。

▽写真部

私共は本年、クラブ内の充実と共に、幅広い多様な活動を推し進めて参りました。その中から明確な目標を設定して、どれだけ自分の意志をそこに表現できるかをこれからの課題としたいと思えます。

▽ハイキング部

今年クラブに昇格した私達は、自然と文化探求と自己を見つめながら活動してきました。現在部員数は十四名で、夏期活動も津軽、能登半島と二パーティーを出しました。先輩達の伝統を受けついで今後ともがんばりたいと思っております。

▽同好会・フラワーデザイン、映画研究、演劇、観光事業研究、フォーク、放送研究、ハワイアン、書道及び茶道は明年度クラブ昇格。

▽愛好会・混声合唱、国文研究、エレクトーン、ギターアンサンブル及び舞踏研究は明四十七年度より。

▽体育部連合会は、スポーツを通じて先輩、

◇クラブ紹介

▽ワンターフォーゲル部

私達のクラブは人数が少ないせいとか、とても暖かくて家庭的なクラブです。山に行くことによって、お互いの結びつきが強くなり人間性が向上していくような、そんな気持ち

營を取りしきってくれたのも今年のリトリートの特徴であった。あと半年、みんな社会に出るであろう。そこでは、荷を負うこと、思わずらうこともあるであろう。そういう時、このリトリートの思い出が、いくらかでも心のはげましになればいい。そう思った。

(学生主事 桑川光樹)

同輩、後輩と一緒に汗を流し語り合うようにして、より有意義な学生生活ができるよう毎日、練習に励んでおります。又今年からスポーツ障害保険に加入する事が決まりました。又、弓道同好会が部に昇格し、スキー及びヨット愛好会が誕生しました。ここで各クラブの近況をお知らせしましょう。

▽卓球部

練習場は関東学院横須賀体育館で、技術面においても学部との合同練習によって女子だけの不十分さをカバーすることができま

▽弓道部

日本古来の弓を通じて共に考え、又、弓を射る以上そこに欠くことのできない精神力が必要になってきます。クラブのムードは実に家庭的です。今年から部に昇格しました。今秋の関東大会で個人三位、団体四位を獲得し、それによって十一月に伊勢で行なわれる東西戦に出場が決定いたしました。現在横浜市立大学道場にて、市大、関学大、本学と三大学合同練習を行なっており、一日でも早く短大に道場ができることを望んでおります。

▽軟式テニス部

太陽の光を浴び、毎日ラケットに我が青春を打ちこんでおります。

▽バドミントン部

バドミントンと聞くと、「ああ」と思いかもしれませんが、シャトルコックとラケットさえあれば気軽にできるスポーツです。練習場は逗子市民体育館です。

▽バスケット部

バスケットというと、女子にとっては少しきつい運動である。という観念が頭の中にあるようですが、確かに練習なり試合なりをしていても、女子の体力というものに限界を感じますが、それだからこそ他の運動に比べて意欲とか、おもしろさだとかが増してくるスポーツだと思っております。

▽同好会・硬式テニス、自動車。

▽愛好会・フィギュアスケート、スキー、ヨットなどが所属しております。



早いものでもう会誌香葉第二号をお届けする時期になりました。ご多用の中を心よくご執筆ご投稿下さいました諸先生並びに会員諸兄弟のご協力があったこそ、と編集員一同深く感謝いたしております。

(J・K)

先生、会員の方々の賜物により、「香葉」第二号が出来上がりました。お忙しい中、御寄稿下さりありがとうございます。心よりお礼申し上げます。

「香葉」は私たちの同窓会、香葉会を発展させていくための大切な機関誌であります。会員の皆様の積極的な参加をお待ちしております。また編集の至らぬ点、多々あると思っております。御叱責をも賜りたく「香葉」を、内、外からの御支援により一層充実した会誌にしたいと編集委員一同願っております。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

(Y・Z)

香 葉 第 2 号

昭和46年12月25日(土) 印刷・発行

関東学院同窓会・香 葉 会

代表者 古 城 房 子

横浜市金沢区六浦町4834 郵便番号 236

関東学院女子短期大学内

電話 (横浜 045) 781—2001 (代表)

781—0148 (直通)

印刷所 西岡印刷株式会社

横浜市南区吉野町5—22

(251) 7017・7018

関東学院女子短期大学



英文科

〈語学コース・文学コース〉

国文科

〈図書館司書・司書教諭課程〉

家政科

〈家政専攻・食物栄養専攻〉
(栄養士課程)

● 昭十七年度入試要項
募集人員 百六十名

英文科 (語学・文学コース) 百六十名
国文科 (家政専攻) 百九十名
家政科 (食物栄養専攻) 百九十名

試験入学者 九十名

出願期間 一月三十一日(月)

第一期 二月九日(水)

第二期 二月二十五日(金)

正午必着 三月七日(火)

試験日 二月十日(水)

第一期 三月八日(水)

合格発表 二月十五日(火)

第二期 三月十日(金)

試験科目 英文科 英語Bの外に、国語(現代国語)と社会(世界史B、日本語)の中から一科目選択

国文科 国語(現代国語、古典乙I)の外に、英語Bと社会(世界史B、日本史)の中から一科目選択

家政科 国語(現代国語)の外に、社会(世界史B、日本史)と理科(化学B、生物)の中から一科目選択

推薦入学

出願期間 一月十日(月)～一月十九日

正午必着

面接日 一月二十日(木)

合格発表 一月二十一日(金)

お問い合わせは本学入試係へ

電話 〇四五(八)〇〇(四八番)

入学案内 干共二四五円

關東學院同窓會・香葉會誌